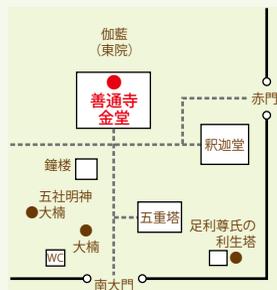




南大門から入ると正面に金堂があります。



- 善通寺町三丁目3-1
- JR善通寺駅から徒歩約15分
- 拝観時間/7:00~17:00

創建当時の姿を残した本堂

総本山善通寺の東院は赤門、南大門、中門の3つの門に囲まれ、創建時にはこの位置に伽藍がらんがありました。現在の2倍以上の広さに15の大きなお堂が建ち並んでいたと推測されています。現在の東院の伽藍配置は創建当時を手本としています。貴重な姿を残す善通寺旧境内として国の史跡に指定されています。

南大門をくぐって東院に入ると正面に見えるのが金堂です。金堂は元禄12(1699)年に再建されたもの。桁行三間、梁間二間、一重もこし 入りもやづくりかとうまど裳階付入母屋造で、正面と両側面には火灯窓れんじらんま (花頭窓)が配され、その上部には「ゆらぎ」の連子欄間が施されているという禅宗様の建築様式で、国の重要文化財です。

本尊は薬師如来坐像やくしにょらい。旧本堂は永禄の兵火で、空海自作と伝える本尊とともに焼け落ちましたが、仏師・北川運長の手によって生まれ変わりました。

金堂の周囲には創建当時の礎石が残されています。また、宝物館には創建期の本尊の頭部そぞう (塑造)が伝存しており、常設展示されています。金堂上層に掲げられた額は有栖川宮ありすがわのみや 熈仁親王たかひとしんのうが揮毫きごうしたものです。

毎月8日には月例法要「薬師如来御法楽やくしにょらいごほうらく」が行われています。



善通寺の本尊は金堂内部の薬師如来坐像です。